

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が発行する
「ソーシャルボンド」への投資について

名古屋市住宅供給公社（理事長：中野克己、以下「当公社」）は、ESG投資の一環として令和3年12月に独立行政法人福祉医療機構が発行する「ソーシャルボンド」への投資を行いました。

「ソーシャルボンド」とは、社会的課題の解決に資する事業（ソーシャルプロジェクト）の資金を調達するために発行される債券のことです。

独立行政法人福祉医療機構は、福祉・医療に関する多様な事業を一体的・有機的に実施することにより、地域の福祉・医療の向上を目指して民間活動を支援しています。また昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、福祉医療貸付事業において融資業務を拡充するなど、福祉医療基盤維持のための対応に取り組んでいます。

令和3年9月、本債券を発行するための枠組みであるソーシャルボンド・フレームワークについて、ICMA（International Capital Market Association／国際資本市場協会）が定義するソーシャルボンド原則2021に適合する旨、株式会社格付投資情報センター（R&I）からセカンドオピニオンを取得しています。

本債券の発行による資金調達は、福祉医療貸付事業（ソーシャルプロジェクト）に充当され、我が国が抱える社会的課題の解決に貢献します。

当公社は、今後も国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献を図る等、社会貢献へ取り組んでいきたいと考えております。

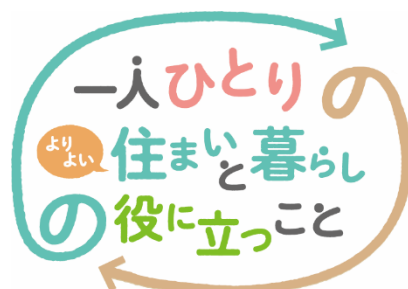
引き続き、適切なリスク管理のもとで、資産運用を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくため、ESG投資への取組みを推進してまいります。

<本債券の概要>

発行体：独立行政法人福祉医療機構（R&I格付 AA+）

発行総額：100億円

償還期間：10年



以上